

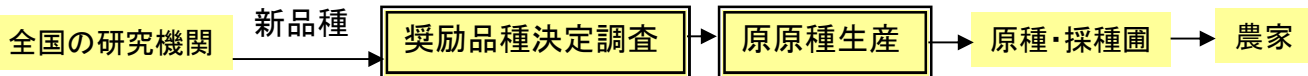
優良品種の選定と栽培技術確立

作物研究室

26年度の主要研究課題の概要

1. 奨励品種決定調査と原原種の生産(昭和29年～)

主要な作物(水稲、麦、大豆、落花生、ソバ、サツマイモ)について、全国の研究機関で開発中の品種を幅広くサーチ。その中から茨城に最も適した品種を選び奨励品種に採用します。同時にもと種(原原種)を生産し、原種・採種圃で増殖した後、農家に種子として配布されます。



2. 「ふくまる」のブランド化のための高品質多収栽培技術の開発(平成26～)

「ふくまる」の高品質・安定栽培のための生育診断技術、葉色診断による玄米タンパク質含量予測技術を開発します。

3. かんしょ「べにはるか」、「ほしこがね」の高品質安定栽培技術の確立(平成25～27年)

「べにはるか」、「ほしこがね」の生産現場における課題解決をすすめ、栽培技術を確立します。

主要な研究成果

1. 奨励品種として導入した品種は、のべ151品種！

(水稲45、陸稲21、麦39、サツマイモ22、大豆18、落花生5、そば1)

主な品種	導入年	こんな品種です
ふくまる	平24	茨城県育成、粒が大きく、収穫量も多い新品種
一番星	平25	茨城県育成、耐冷性や高温耐性を持つ大粒の新品種
さとのそら	平21	栽培性、耐病性、品質と3拍子揃っためん用小麦品種
カシマゴール	平22	栽培性、耐病性に優れた麦茶用六条大麦品種
ほしキラリ	平23	鮮やかな黄色で上品な甘味の蒸切干し用品種
べにはるか	平25	粘質で甘みの強い、食味の優れる品種

2. 青立ち発生の少ない大豆有望品種 「里のほほえみ」

「里のほほえみ」は「タチナガハ」とほぼ同等の収量で、青立ちの発生が少ない品種です。



「里のほほえみ」 「タチナガハ」

3. 小麦「さとのそら」の播種期別栽培法

「さとのそら」を10月下旬に播種する際には播種量を4kg/10aとし、播種時には基肥を施用せず、2～3ヶ月後に表層施肥することで多収となります。



今後の方向

1. 水稲では、中晩生品種の優良品種の選定を進め、水田農業の活性化を支援します。
2. 青立ちに強い大豆、縞萎縮病に強い二条大麦の新品種を速やかに奨励品種に採用し、県内水田輪作体系の一層の強化を図ります。
3. 食品工業部門との連携により、新しい食と農の関係づくりを進めます。